

災害の概況

(平成25年)



鳥取県西部広域行政管理組合
消防局

目 次

(ページ数)

災害概況について	1
I 火災概況	3
1 火災の現況と最近の動向	3
別図 I - 1 火災件数の推移と傾向図	3
別表 I - 1 火災総括表	4
2 出火状況	5
別図 I - 2 火災種別ごとの件数と構成比率	5
別図 I - 3 月別の火災種別ごと出火件数	5
別図 I - 4 市町村別火災件数と構成比	6
3 火災による死傷者の状況	6
別表 I - 2 火災種別死傷者発生状況	6
4 出火原因	7
別図 I - 5 火災種別ごとの主な火災原因	7
別表 I - 3 市町村別火災状況	8
別表 I - 4 過去5年間の市町村別火災件数	9
II 救急概況	10
1 救急出動件数、救急搬送状況	10
2 市町村別救急活動状況	10
3 傷病程度別搬送状況	10
4 年齢別搬送状況	10
5 署所別救急活動状況	10
6 月別救急活動状況	10
7 現場到着所要時間、収容所要時間	10
8 応急手当実施状況	10
9 高度救命処置状況	10
10 救急講習件数の推移	10
11 市町村別救急活動の推移	10
別図 II - 1 事故種別救急出動状況	11
別図 II - 2 事故種別救急搬送状況	11
別図 II - 3 過去5年間の救急推移	12
別図 II - 4 市町村別救急活動状況	12
別図 II - 5 傷病程度別搬送状況	13
別図 II - 6 年齢別搬送状況	13
別図 II - 7 署所別救急活動状況	14
別図 II - 8 月別救急活動状況	14

別図Ⅱ－ 9	現場到着所要時間	15
別図Ⅱ－ 1 0	収容所要時間	15
別図Ⅱ－ 1 1	応急手当実施状況	16
別図Ⅱ－ 1 2	高度救命処置状況	16
別図Ⅱ－ 1 3	医師引き継ぎ時の状況	16
別図Ⅱ－ 1 4	過去5年間の救急講習件数推移	17
別図Ⅱ－ 1 5	過去5年間の救急講習人員推移	17
別表Ⅱ－ 1	応急手当指導員・普及員の養成	17
別表Ⅱ－ 2	過去5年間の市町村別救急件数	18
Ⅲ	救助概況	19
1	事故種別救助出動状況	19
2	事故種別救助活動状況	19
3	事故種別救助人員状況	19
4	管轄別救助活動状況	19
5	市町村別救助活動状況	19
6	月別救助活動状況	19
別図Ⅲ－ 1	事故種別救助出動状況	20
別図Ⅲ－ 2	事故種別救助活動状況	20
別図Ⅲ－ 3	事故種別救助人員状況	21
別図Ⅲ－ 4	管轄別救助活動状況	21
別図Ⅲ－ 5	市町村別救助活動状況	22
別図Ⅲ－ 6	月別救助活動状況	22
Ⅳ	119番着信概況	23
1	着信件数の推移	23
2	月別の着信状況	23
3	電話種別による通報状況	23
4	携帯電話からの着信状況	23
5	時間帯別119番通報の着信状況	23
別表Ⅳ－ 1	119番着信件数の推移	24
別表Ⅳ－ 2	月別119番着信状況	24
別表Ⅳ－ 3	電話種別による119番着信件数の推移	25
別表Ⅳ－ 4	電話種別による通報状況	25
別表Ⅳ－ 5	携帯電話からの着信状況	26
別表Ⅳ－ 6	携帯電話の消防機関別転送状況	26
別図Ⅳ－ 1	時間帯別着信状況	26

災害概況について

I 火災概況

平成25年中の火災件数は、138件で前年に比べ23件の増加となりました。

建物火災が8件減少、その他火災が20件増加し、林野火災は6件、車両火災は2件の増加となりました。

その他火災については、59件のうち2月から6月に気象状況の変化（フェーン現象等）によるもの及び、雨量が少なく好天が続いたことで、この5ヶ月間で7割弱の40件が発生しています。

火災件数は前年に比べ23件増加しましたが、焼損床面積は1,682㎡減少しています。これは、焼損棟数の減少と規模の大きな建物火災がなかったことによるものです。

建物火災1件当たりの損害額は前年に比べ約2割増加となっています。

火災による死者は6人で、前年と同数でした。6人のうち5人が建物火災によるものでした。

年齢別では、65歳以上の高齢者の方が4人、20歳代・50歳代の方がそれぞれ1人となっています。

死に至った経過は、逃げ遅れ5人、その他不明1人となっています。

負傷者は18人で、前年より4人の減少となりました。負傷者のうち11人が65歳以上の高齢者の方で、8人が消火の際の火傷で負傷しています。

住宅用火災警報器の設置義務化後、住宅火災、警報器が作動し早期に火災に気づいた事例が年々増加しています。

平成25年中は、火災発生時に警報器が作動した事例が7件あり、建物を全焼した火災は1件となっています。

今後とも住民の皆様に対する日頃からの出火防止の啓発、万一火災が発生した場合に延焼拡大を防ぐための防災製品の普及、初期消火の為に住宅用消火器の紹介、並びに住宅用火災警報器が未設置である住宅に対する設置推進及び設置後の維持管理について広報活動をしていくことが重要と考えます。

II 救急概況

救急出動件数は、10,018件(67件の増・+0.6%)で、救急搬送人数は9,340人(1人の減)で、過去最多となっています。

事故種別ごとの出動件数は、急病が6,147件(61.3%)と半数以上を占め、次いで一般負傷1,354件(13.5%)、転院搬送1,224件(12.2%)、交通事故837件(8.3%)の順となっています。

年齢別の搬送人数は、65歳以上の高齢者の方が5,622人(60.2%)と全搬送人数に占め、今後も少子高齢化の進展に伴い更に割合が増加することが予測されます。

心肺停止傷病者に対して、家族等による応急手当の割合が53%となっています。救急現場では早期の応急手当が救命のチャンスを拡大しますので、住民の方へ心肺蘇生法の普及やAEDの設置が不可欠です。

Ⅲ 救助概要

救助出動件数は、153件(16件の減・－8.9%)、救助活動件数は91件(27件の減・－22.9%)となっています。また、救助人員は65人(31人の減・－32.3%)です。

事故種別ごとの救助出動件数は、交通事故が68件(44.4%)と最も多く、次いでその他の事故が41件(26.8%)、火災が25件(16.3%)、水難事故が9件(5.9%)、建物等による事故が7件(4.6%)、機械による事故が3件(2.0%)となっています。

救助人員では交通事故が最も多く35人(53.8%)、次いでその他の事故23人(35.4%)、建物等による事故が4人(6.2%)の順となっています。

年々、風水害等の規模が大きくなり、甚大な被害が各地で発生しています。被害を最小限にするためには、県内外の消防機関、医療機関、防災機関、国、県及び市町村などとの日頃からの迅速な連携活動が必要不可欠です。

Ⅳ 119番着信状況

119番の総着信件数は、13,862件で昨年総件数より504件(3.6%)多くなっています。事故種別ごとに着信件数を見ますと、火災通報217件(18件8.2%増)、救急通報9,708件、(144件1.4%増)救助通報72件(2件2.7%減)、警戒通報129件(40件31%増)、問合せ1,124件、間違い817件、悪戯126件、訓練等1,669件でした。総着信件数のうち、火災、救急、救助などの災害通報は10,126件で119番着信の73%を占めています。

電話種別ごとに着信件数は、固定電話5,999件で431件(7.1%)減、IP電話3,252件で328件(10%)増、携帯電話による通報は4,611件で607件(13.1%)もの増でした。固定電話からの通報の減少、IP電話、携帯電話からの通報の増加は近年継続して見られる傾向です。

火災、救助、警戒といった屋外で発生または発見される災害では携帯電話による通報比率がそれぞれ60%以上と高くなり、自宅や屋内などで発生することが多い救急通報は、IP電話を含む固定電話による通報比率が70%と高くなる現象が見られます。

携帯電話の普及により、携帯電話での119番通報が増加し災害発生場所の確定に時間を要する場合がありますが、位置情報通知システムの導入によりGPS機能を備えた携帯電話からの119番通報は、正確な位置情報の把握が可能となりました。今後は、このシステムを活用した迅速な災害場所の確定、出場指令が行えるものと考えています。

I 火災概況

(平成25年1月～12月)

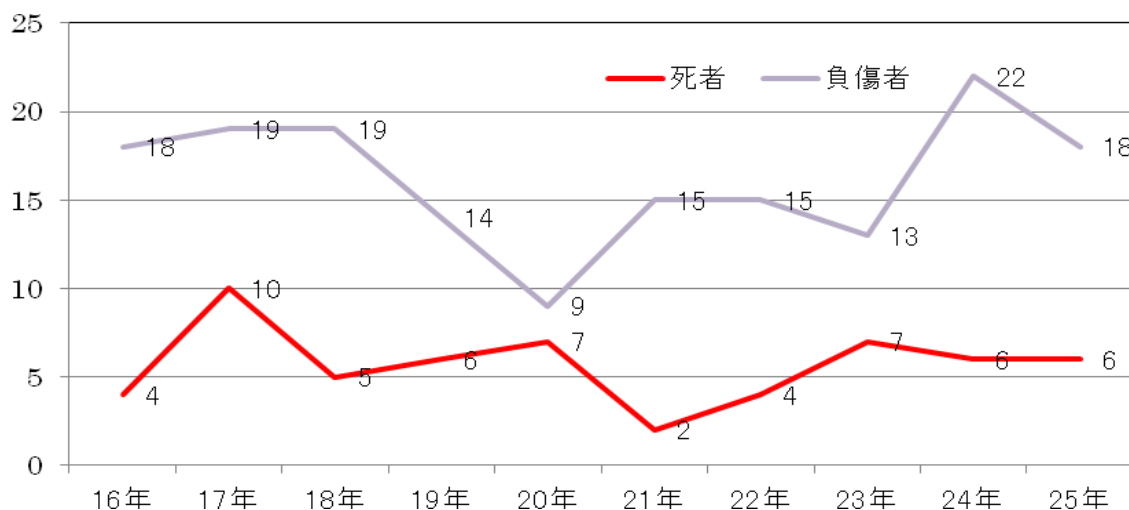
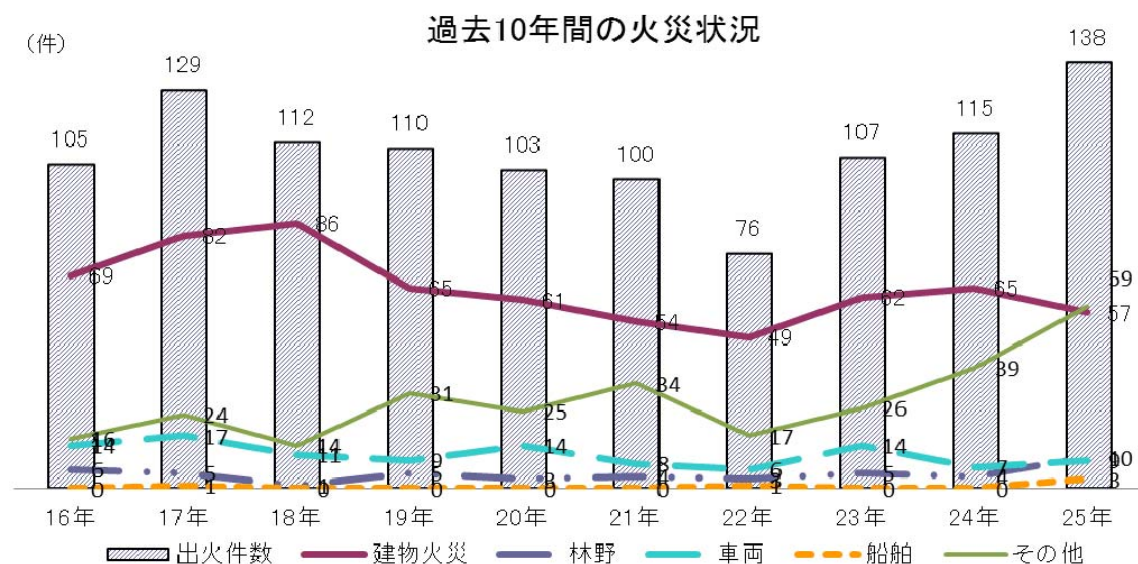
1 火災の現況と最近の動向

この10年間の出火件数をみると、年間平均出火件数は109.5件で、西部広域消防発足以来最も少ない76件を記録した平成22年と近年で一番多い平成25年の138件を除き、おおむね平均値に近い件数となっています。

平成25年中の火災件数は138件と前年に比べ23件（20%）の増加となっています。

また、火災による死者数は過去10年間の平均は5.7人で、平成17年に10人の最多を記録した後、平成21年には2人まで減少しましたが、平成25年は前年と同じ6人の死者が発生しています（別図I-1、別表I-1参照）。

別図I-1 火災件数の推移と傾向図



別表 I - 1 火災統括表

区 分	単 位	平成16年	平成24年	平成25年	増 減	増 減 率
出 火 件 数	件	105	115	138	23	20.0
建物火災		69	65	57	-8	△ 12.3
林野火災		6	4	10	6	150.0
車両火災		14	7	9	2	28.6
船舶火災		0	0	3	3	—
その他火災		16	39	59	20	51.3
焼 損 棟 数	棟	103	97	88	-9	△ 9.3
全 焼		27	22	28	6	27.3
半 焼		12	3	3	0	0.0
部 分 焼		33	29	31	2	6.9
ぼ や		31	43	26	-17	△ 39.5
建物焼損床面積	m ²	5,503	4,422	2,740	-1,682	△ 38.0
建物焼損表面積	m ²	269	143	250	107	74.8
林野焼損面積	a	30	17	143	126	741.2
死 者	人	4	6	6	0	0.0
負 傷 者	人	18	22	18	-4	△ 18.2
り 災 世 帯 数	世帯	56	56	46	-10	△ 17.9
全 損		11	17	12	-5	△ 29.4
半 損		6	2	3	1	50.0
小 損		39	37	31	-6	△ 16.2
り 災 人 員	人	190	125	130	5	4.0
損 害 額	千円	254,660	97,851	108,544	10,693	10.9
建物火災		249,412	95,686	102,500	6,814	7.1
林野火災		5	295	446	151	51.2
車両火災		5,243	1,753	4,315	2,562	146.1
船舶火災		0	0	71	71	—
その他火災		0	117	1,212	1,095	935.9
爆 発		0	0	0	—	—
出 火 率	件/万人	4.31	4.72	5.69	0.96	—

(備考)

- 1 各年の数値は、1月～12月に発生した火災を集計したもの。
- 2 「建物火災」とは、建物またはその収容物が焼損した火災をいう。
- 3 「林野火災」とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。
- 4 「車両火災」とは、自動車車両、鉄道車両及び被けん引車又はこれの積載物が焼損した火災をいう。
- 5 「船舶火災」とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。
- 6 「その他火災」とは、建物火災、林野火災、車両火災及び船舶火災以外の火災（空地、田畑、道路、河川敷、ごみ集積場、屋外物品集積所、軌道敷、電柱類の火災）をいう。
- 7 死者には、火災により負傷した後、48時間以内に死亡した者を含む。
- 8 出火率とは、人口1万人当たりの出火件数をいう。
- 9 △は負数を表す。

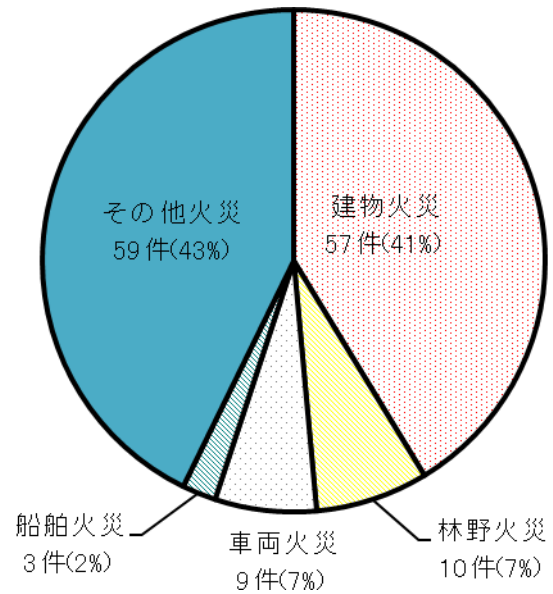
2 出火状況

別図 I - 2 火災種別ごとの件数と構成比率

(1) 建物火災は火災全体の41%

総出火件数138件について、その構成比率をみると、その他火災が全体の43%で最も高い比率を占め、その次に建物火災が41%となっています。

(別図 I - 2 参照)



(2) 建物火災1件当たりの損害は増加、焼損面積は減少

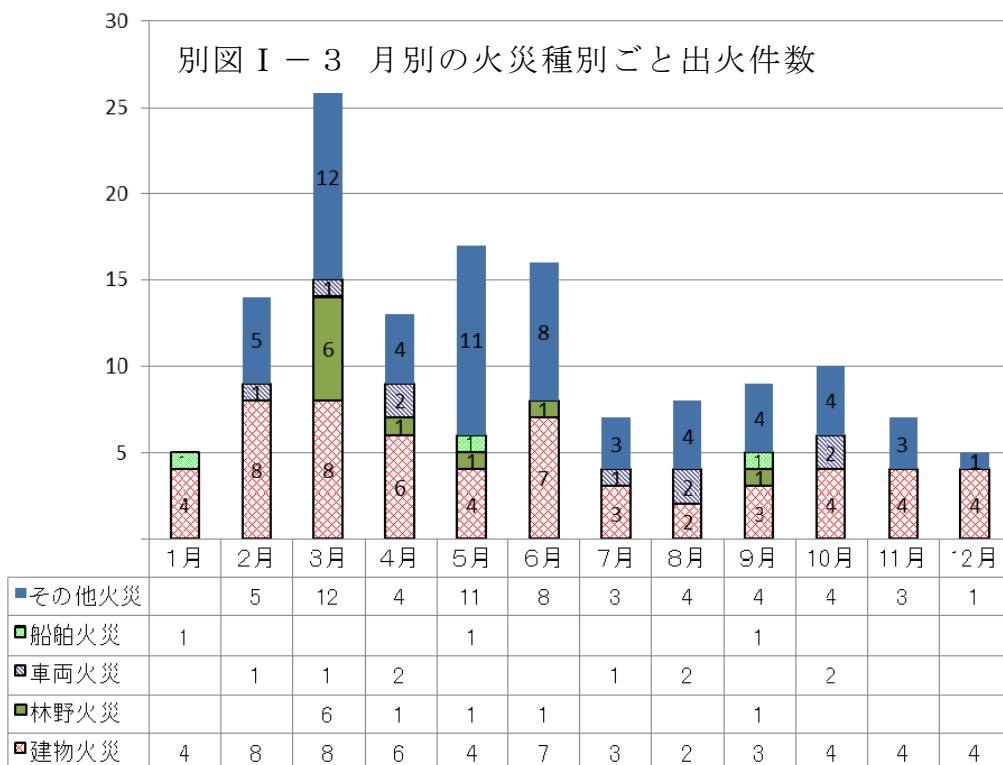
建物火災の1件当たりの損害額は前年比の22.2%増加し、焼損面積は38%の減少となっています。

(別表 I - 1 参照)

(3) その他火災は2月から6月の間に多く発生

月別の火災種別ごとの出火件数をみると、その他火災については59件のうち2月から6月の5ヶ月間で40件(67.8%)発生しています。出火箇所は田畑、空地、敷地内で39件(66.1%)を占めています。

建物火災は2月・3月の8件(14%)が最多で、8月の2件が最小となっています。(別図 I - 3 参照)

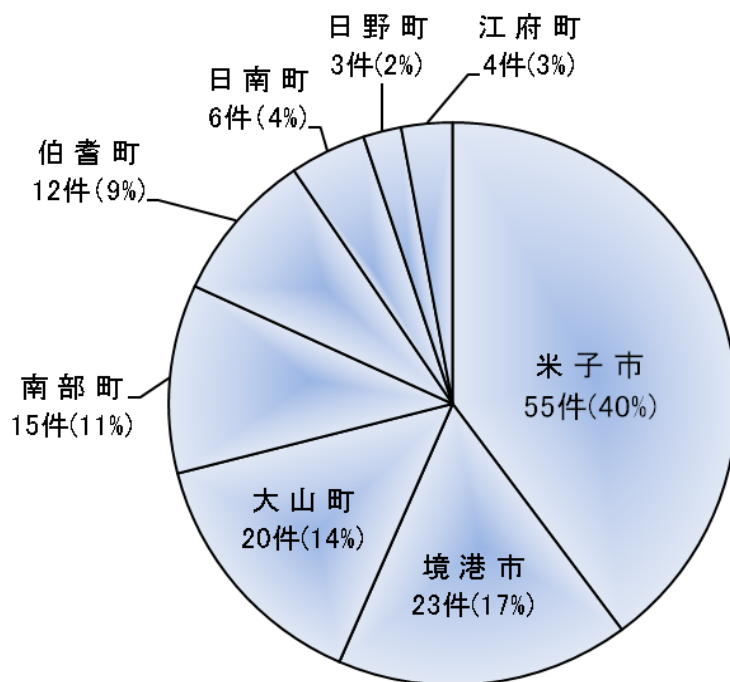


(4) 市町村別火災状況

火災件数を市町村別で見ると、米子市が最も多く55件(40%)、次いで境港市23件(17%)、大山町の20件(14%)となっています。最も少なかったのは日吉津村の0件です。(別図I-4参照)

(市町村別火災概況一覧表は別表I-3、I-4については文末に添付)

別図I-4 市町村別火災件数と構成比



3 火災による死傷者の状況

(1) 死者の状況

火災による死者数は6人で、前年と同じで、火災種別では建物火災による死者が5人(83.3%)となり、1人は車両火災によるものです。

死に至った経過は、逃げ遅れ5人(83.3%)、次いでその他不明1人(16.7%)となっています。

(2) 負傷者の状況

負傷者は18人で前年に比べ4人(18.2%)減少しました。

負傷者のうち1人(6.7%)が建物火災で発生し、その他火災で5人発生しています。(別表I-2参照)

別表I-2 火災種別死傷者発生状況

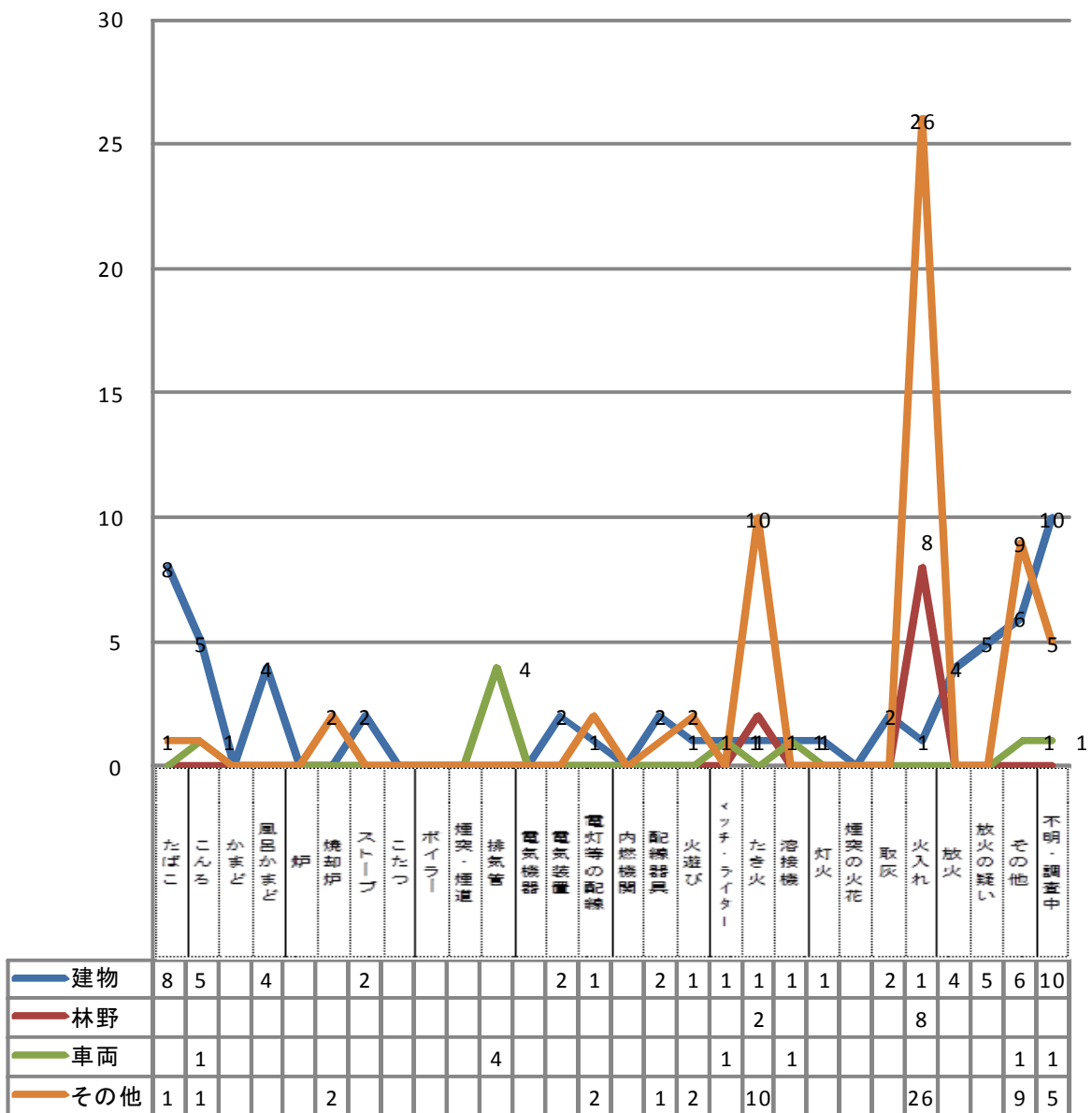
	合計	建物火災						車両火災	林野火災	その他火災
		小計	住宅	併用住宅	共同住宅	飲食店	その他			
死者	6	5	4		1			1		
死者(0~5歳)	0	0								
死者(6~64歳)	2	2	1		1					
死者(65歳~)	4	3	3					1		
負傷者	18	12	9		1		2		1	5

4 出火原因

出火件数 138 件の出火原因を見ると、火入れが 35 件（25.4%）、次いでたき火 13 件（9.4%）、たばこ及び放火又は放火の疑いの合計数が 9 件（6.5%）、となっています。

建物火災の主な原因をみると、放火又は放火の疑い、たばこ、こんろ、風呂かまどなどで、火気の取り扱いの不注意や不始末から発生しています。（別図 I-5 参照）

別図 I-5 火災種別ごとの火災原因



別表 I - 3

市町村別火災状況 (平成25年1月～平成25年12月) 消防本部名 鳥取県西部広域行政管理組合 消防局

市町村名	火災件数				焼損面積			焼損棟数	り災世帯数	り災人員	死傷者			損害額 (千円)			
	合計	前(年)内件数は	建物	林野	車両	船舶	その他				床面積 m ²	表面積 m ²	林野		死者	負傷者	
																30日死者	負傷者
米子市	55	(66)	28	1	1		25	1,396	152		3	72	3	7	57,499		
境港市	23	(13)	12		2	3	6	448	43		1	36	1	5	18,139		
日吉津村	0	(2)															
大山町	20	(16)	8	1	2		9	328	15	17	1	6	1	1	6,297		
南部町	15	(5)	2	4	1		8	268	4	84		4		1	10,684		
伯耆町	12	(6)	5		1		6	119	31		1	7	1	4	12,296		
日南町	6	(2)	2	2	1		1	181	5	17		5			3,496		
日野町	3	(4)			1		2								133		
江府町	4	(1)		2			2			25							
合計	138	(115)	57	10	9	3	59	2,740	250	143	6	46	130	18	108,544		

前年同期管内合計

	115		65	4	7		39	4,422	143	17	6	56	125	22	97,851
--	-----	--	----	---	---	--	----	-------	-----	----	---	----	-----	----	--------

出火原因 (管内合計)

	合計	たばこ	こんろ	かまど	風呂	炉	焼却炉	ストーブ	こたつ	ボイラー	煙突	排気管	電気機器	電気装置	電灯配線	内燃機関	配線器具	火あそび	マッチ等	たき火	溶接機器	灯火	衝突火花	取灰	火入れ	放火	放火疑	その他	不明・調査中
平成25年	138	9	7		4		2	2				4		2	3		3	3	2	13	2	2	1	2	35	4	5	19	16
平成24年	115	10	10		2		2	5				3	1	1	3		1	3		8		1	1	1	12	11	1	24	16

別表 I - 4

	平成25年				平成24年				平成23年				平成22年				平成21年											
	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他				
米子市	55	28	1	1		25	66	42	4	4	20	52	35		4	13	35	24	2	3	1	5	53	27		4	22	
境港市	23	12		2	3	6	13	6	1	1	6	18	9		3	6	7	4		1		2	22	14			8	
日吉津村	0						2	1	1			1			1		1					1	0					
大山町	20	8	1	2		9	16	6	1		9	12	4	1	5	2	15	9				6	12	7	1	1	3	
南部町	15	2	4	1		8	5	3	1		1	5	3	1		1	10	7	1			2	1	1				
伯耆町	12	5		1		6	6	2	2		2	4	2	1	1	1	3	3					4	4	3	1		
日南町	6	2	2	1		1	2	2				8	6	1		1	0						5	1	2	2		
日野町	3			1		2	4	2	1	1	1	3	1	1		1	2	1		1			0					
江府町	4		2			2	1	1				4	2	1	1	1	3	1		1		1	3	1	1	1	1	
合 計	138	57	10	9	3	59	115	65	4	7	39	107	62	5	14	26	76	49	3	6	1	17	100	54	4	8	34	

II 救急概況

(平成25年1月～12月)

1 救急出動件数、救急搬送状況

平成25年中の救急出動件数は、前年に比べて67件増の10,018件、搬送人員は1人減の9,340人で、過去最多の救急件数となりました。
(別図Ⅱ-1、Ⅱ-2、Ⅱ-3参照)

2 市町村別救急活動状況

米子市、南部町、日南町は減少し、他市町村では増加となりました。特に大山町の出場件数、搬送人員が大幅に増加となりました。
(別図Ⅱ-4参照)

3 傷病程度別搬送状況

傷病程度別の搬送人員では、中等症が4,491人(48.1%)で最も多く、次いで軽症が3,487人(37.3%)となっています。
(別図Ⅱ-5参照)

4 年齢別搬送状況

年齢別の搬送人員では、65歳以上の高齢者が5,622人(60.2%)と最も多くなっています。
(別図Ⅱ-6参照)

5 署所別救急活動状況

署所別では、米子消防署の出動件数及び搬送人員がそれぞれ3,594件(35.9%)、3,247人(34.8%)と最も多くなっています。
(別図Ⅱ-7参照)

6 月別救急活動状況

月別の出動件数は、12月が911件(9.1%)、続いて11月の909件(9.1%)となっています。
搬送人員は、11月が855人(9.2%)で最も多く、続いて12月の837人(9.0%)となっています。
(別図Ⅱ-8参照)

7 現場到着所要時間、収容所要時間

平均現場到着所要時間は7分43秒で前年より13秒の延着、平均収容所要時間は36分37秒で前年より25秒延着しました。
(別図Ⅱ-9、Ⅱ-10参照)

8 応急手当実施状況

心肺停止傷病者286人のうち、家族等により応急手当を受けた人は、152人(53%)でした。
(別図Ⅱ-11参照)

9 高度救命処置状況

心肺停止傷病者286人のうち救急救命士による高度救命処置を206人に行い、そのうち26人に回復が見られました。
(別図Ⅱ-12、Ⅱ-13参照)

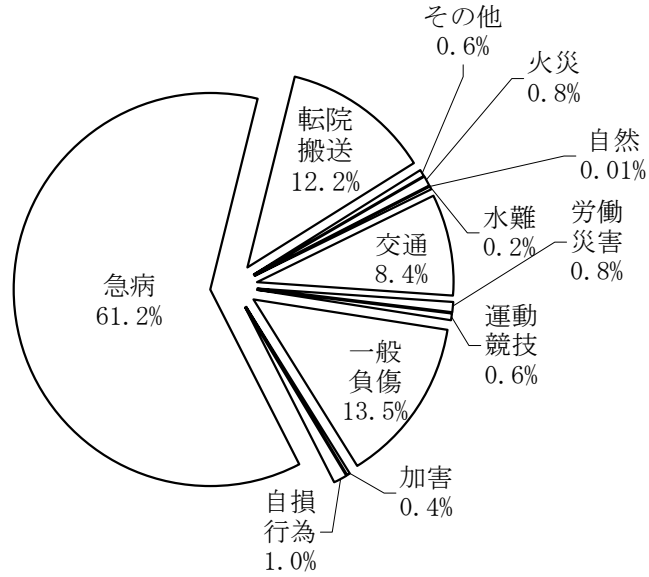
10 救急講習件数の推移

救急講習には、毎年約10,000人の方が受講され、圏域住民の応急手当に対する意識の高さがうかがえます。
(別図Ⅱ-14、Ⅱ-15、別表Ⅱ-1参照)

11 市町村別救急活動の推移

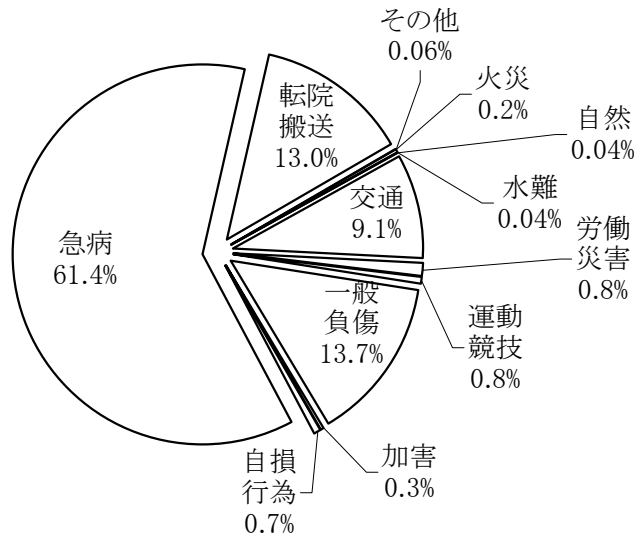
(別表Ⅱ-2参照)

別図Ⅱ-1 事故種別救急出動状況



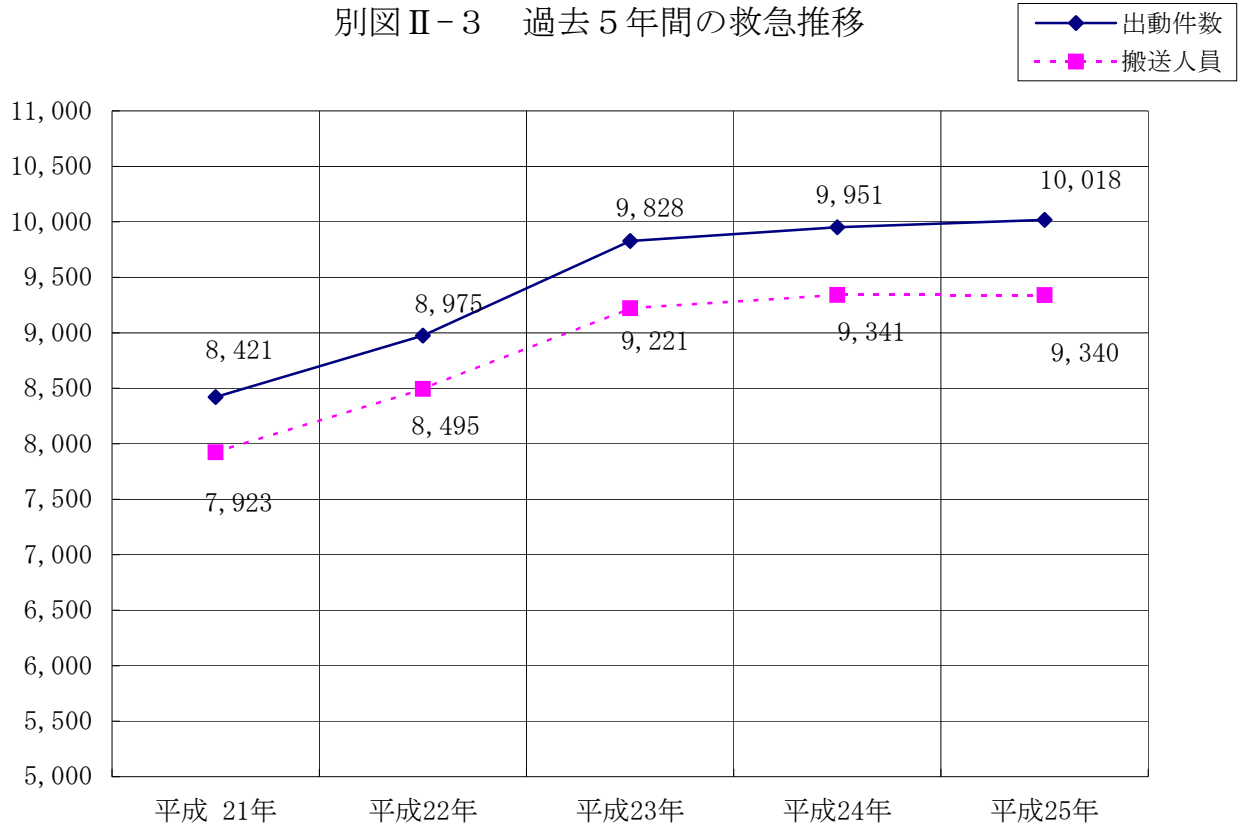
事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
出動件数	82	3	17	837	78	76	1,354	36	105	6,147	1,224	59	10,018

別図Ⅱ-2 事故種別救急搬送状況

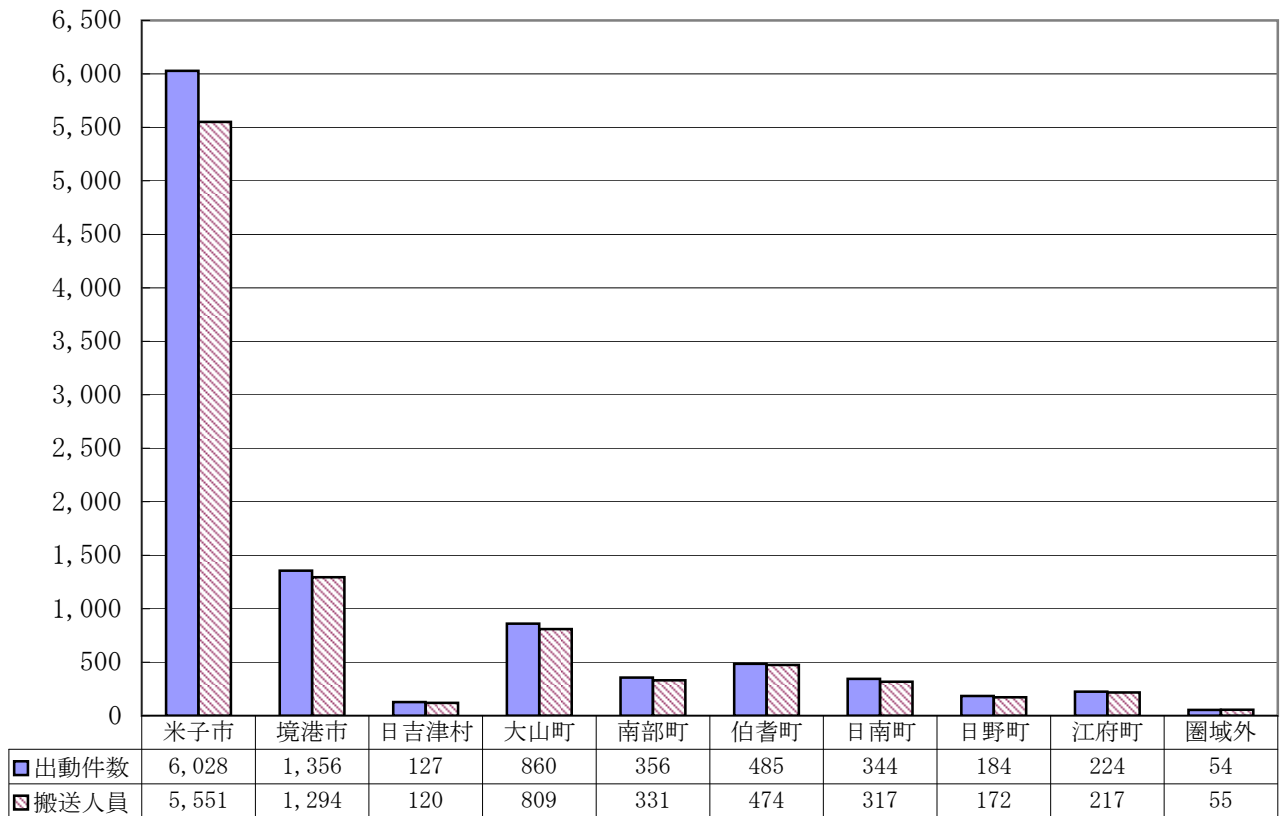


事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
搬送人員	15	2	5	847	79	76	1,275	29	70	5,731	1,211	0	9,340

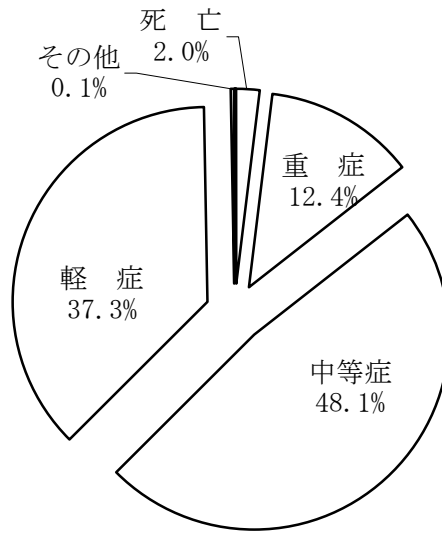
別図Ⅱ-3 過去5年間の救急推移



別図Ⅱ-4 市町村別救急活動状況

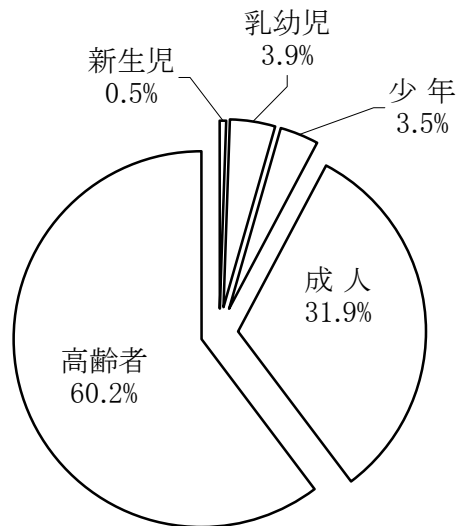


別図Ⅱ-5 傷病程度別搬送状況



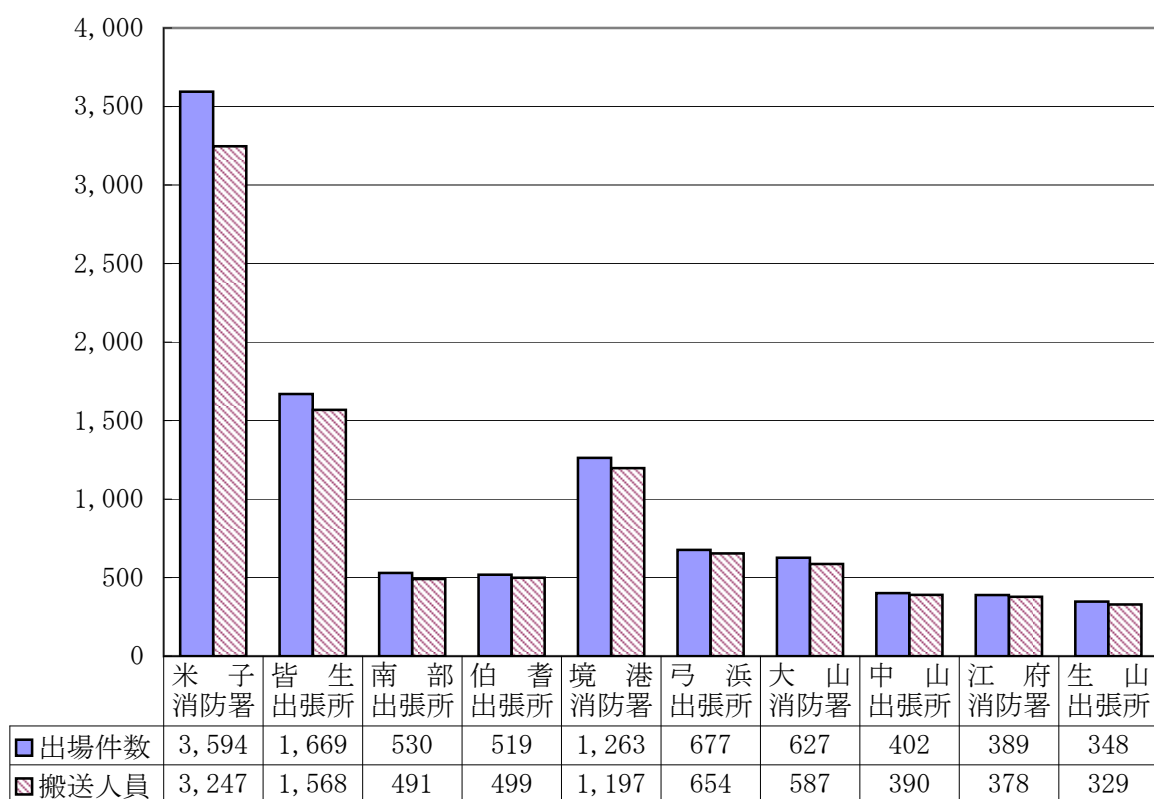
程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	188	1,161	4,491	3,487	13	9,340

別図Ⅱ-6 年齢別搬送状況

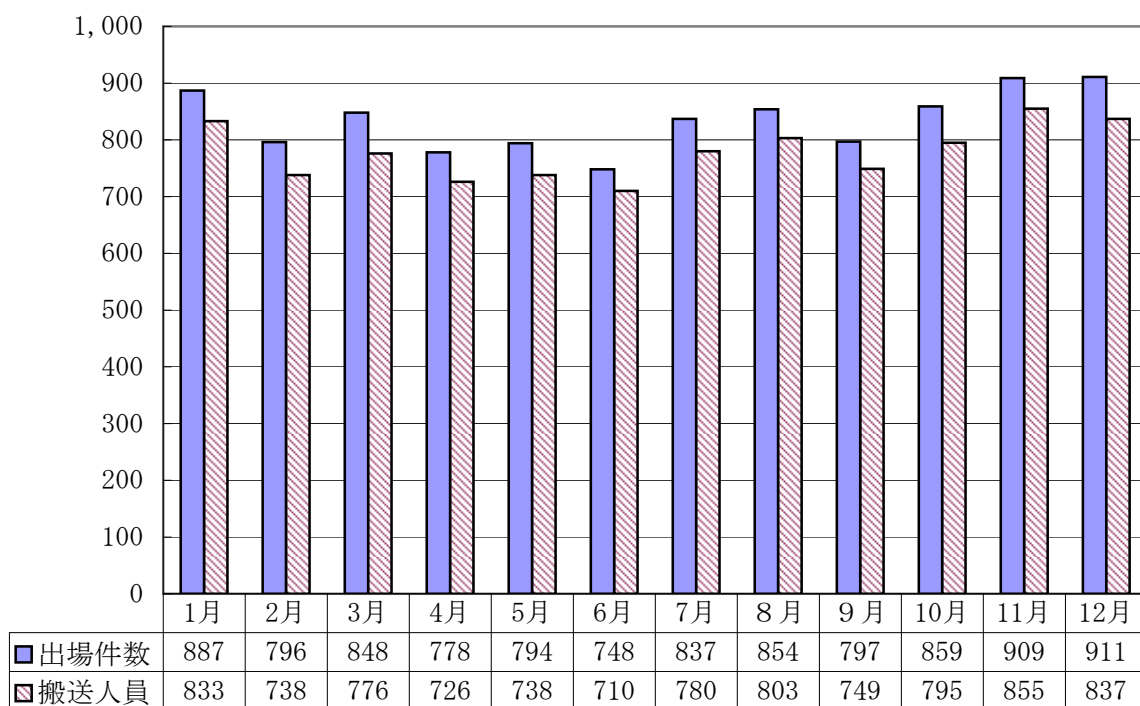


	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合 計
搬送人員	47	363	328	2,980	5,622	9,340

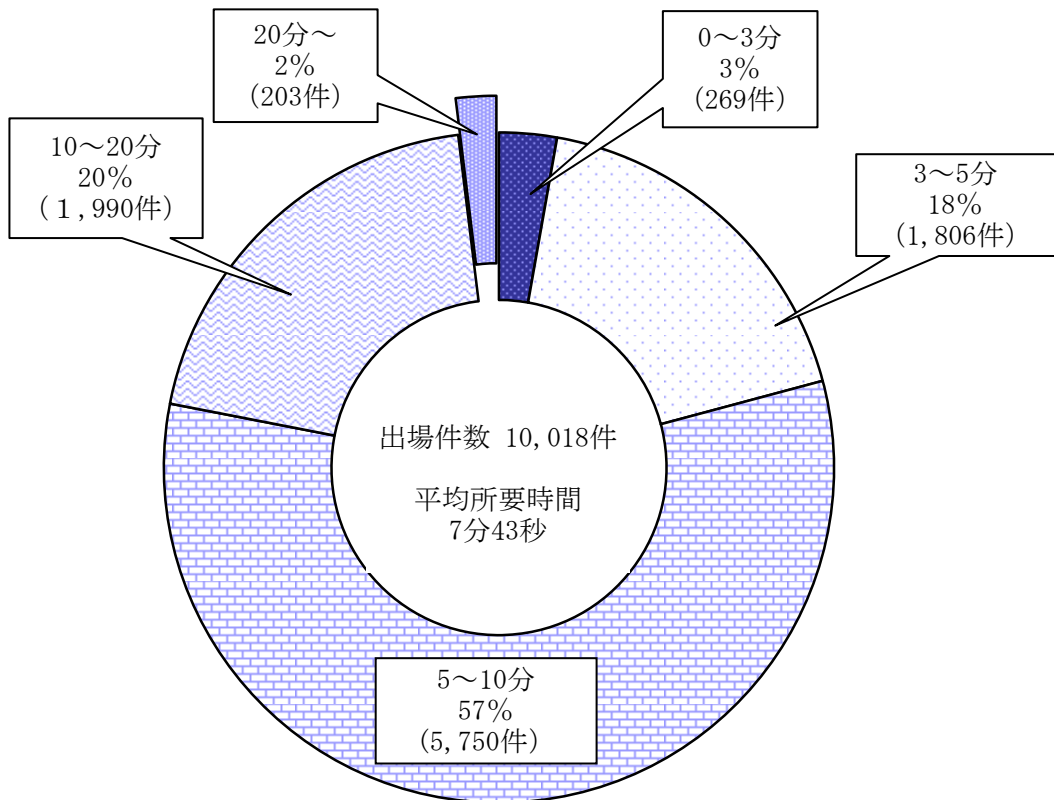
別図Ⅱ-7 署所別救急活動状況



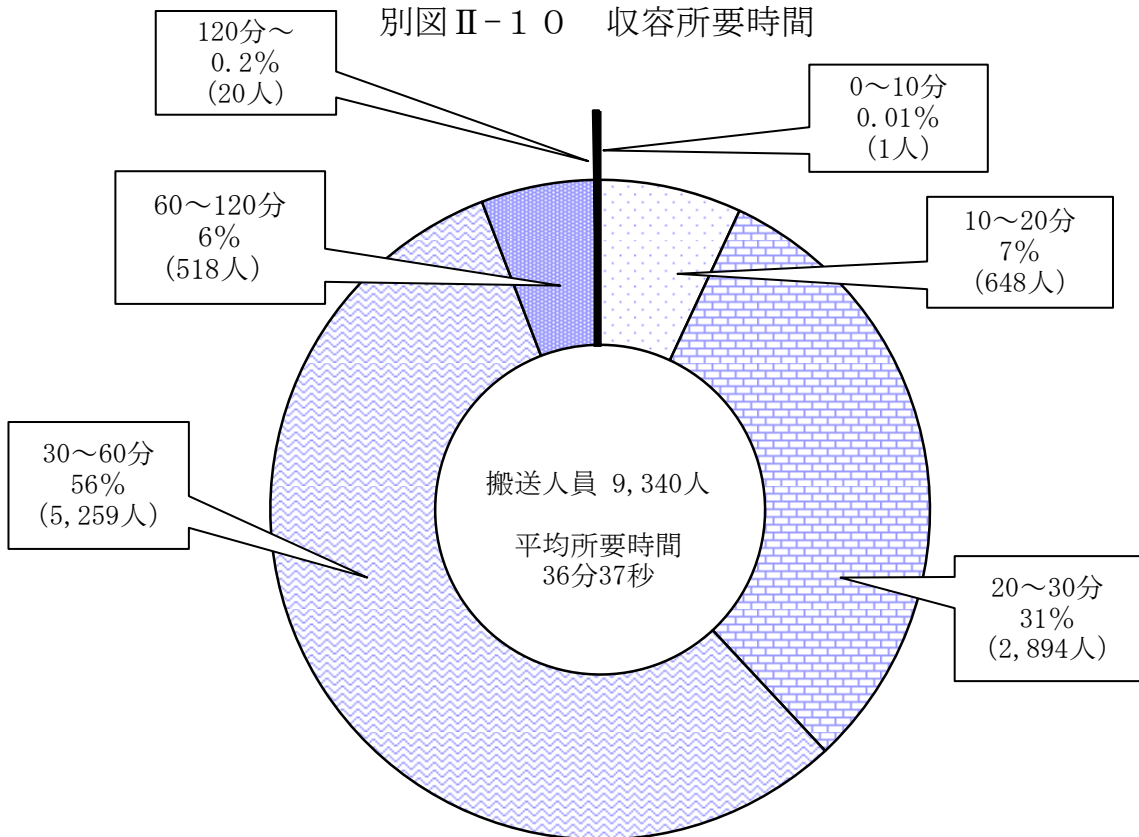
別図Ⅱ-8 月別救急活動状況



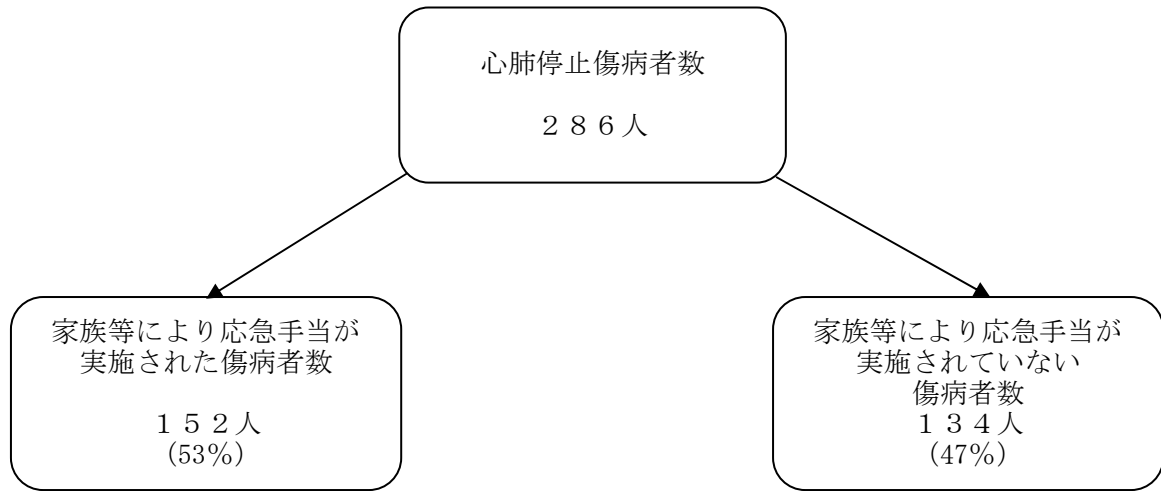
別図Ⅱ-9 現場到着所要時間



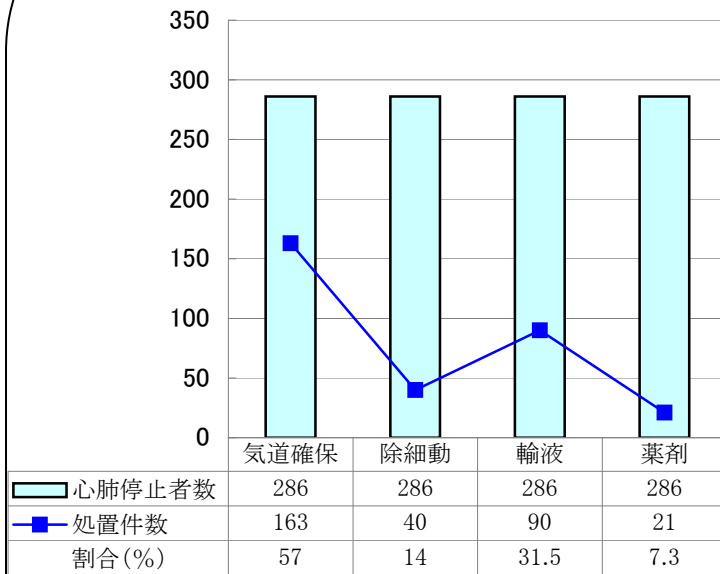
別図Ⅱ-10 収容所要時間



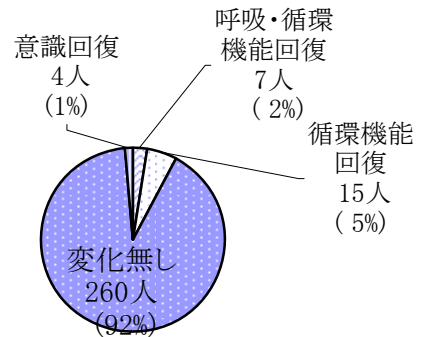
別図Ⅱ-1 1 応急手当実施状況



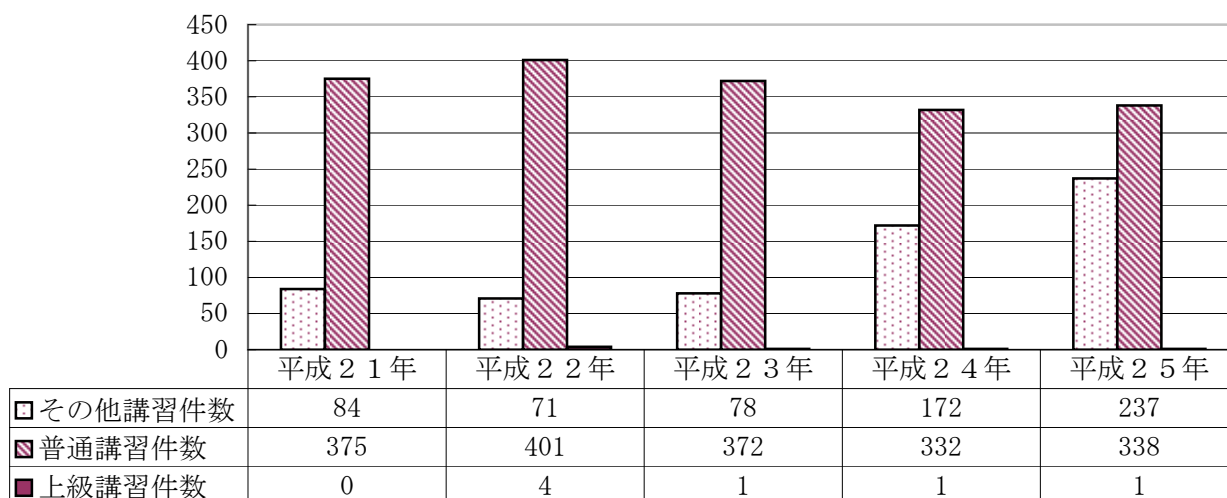
別図Ⅱ-12
高度救命処置状況



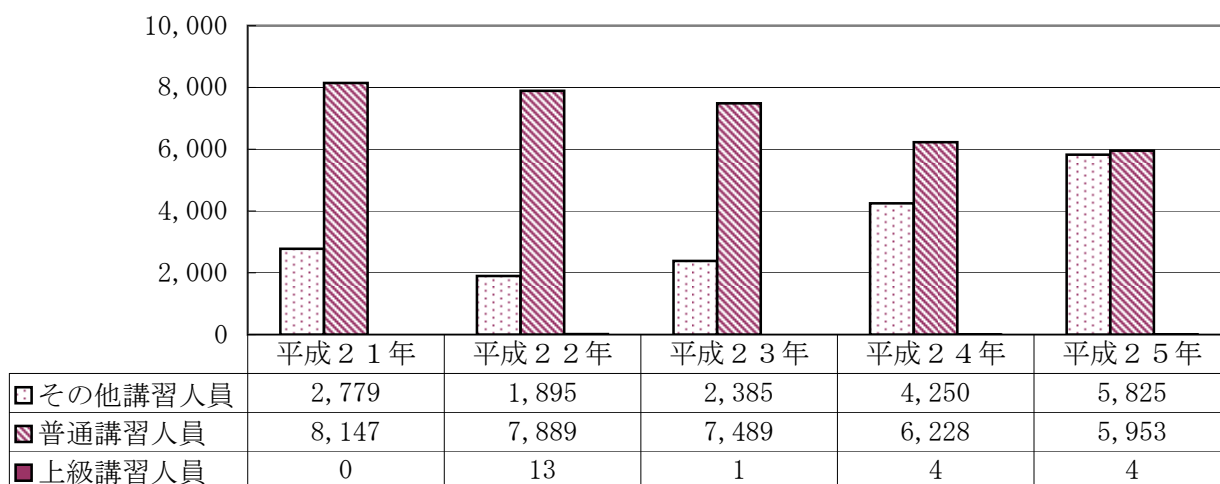
別図Ⅱ-1 3
医師引き継ぎ時の状況



別図Ⅱ－14 過去5年間の救急講習件数推移



別図Ⅱ－15 過去5年間の救急講習人員推移



別表Ⅱ－1 応急手当指導員・普及員の養成

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
応急手当指導員	0	0	0	3	0
応急手当普及員	15	0	1	0	0

別表Ⅱ－2 過去5年間の市町村別救急件数

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
米子市	5,019	5,407	5,817	6,092	6,028
搬送人員数	4,681	5,054	5,390	5,668	5,551
境港市	1,105	1,143	1,357	1,344	1,356
搬送人員数	1,049	1,103	1,283	1,292	1,294
日吉津村	120	145	156	119	127
搬送人員数	111	141	150	113	120
大山町	711	729	836	766	860
搬送人員数	672	705	812	728	809
南部町	304	319	383	376	356
搬送人員数	290	297	365	360	331
伯耆町	395	456	470	461	485
搬送人員数	380	442	447	435	474
日南町	351	362	370	349	344
搬送人員数	343	348	355	332	317
日野町	168	204	177	179	184
搬送人員数	160	201	169	161	172
江府町	225	179	208	217	224
搬送人員数	217	174	200	209	217
圏域外	23	31	54	48	54
搬送人員数	20	30	50	43	55
合計	8,421	8,975	9,828	9,951	10,018
搬送人員数	7,923	8,495	9,221	9,341	9,340

Ⅲ 救助概況

(平成25年1月～12月)

1 事故種別救助出動状況

救助出動件数は153件あり、そのうち交通事故が68件(44.4%)、その他の事故が41件(26.8%)、火災が25件(16.3%)、水難事故が9件(5.9%)、建物等による事故が7件(4.6%)、機械による事故が3件(2.0%)等の順となっています。なお、風水害等自然災害での救助出動はありませんでした。

(別図Ⅲ—1参照)

2 事故種別救助活動状況

救助活動件数は91件あり、そのうち交通事故が34件(37.4%)、火災が25件(27.5%)、その他の事故が23件(25.2%)、水難事故が4件(4.4%)、建物等による事故4件(4.4%)、機械による事故1件(1.1%)等の順となっています。

(別図Ⅲ—2参照)

3 事故種別救助人員状況

救助活動により救助された人員は65人あり、そのうち交通事故が35人(53.8%)と最も多く、次いでその他の事故が23人(35.4%)、建物等による事故4人(6.2%)、水難事故が2人(3.1%)、機械による事故が1人(1.5%)等となっています。

(別図Ⅲ—3参照)

4 管轄別救助活動状況

消防署の管轄別に出動件数を見ると、米子消防署が77件(50.3%)と最も多く、次いで大山消防署が31件(20.3%)、境港消防署が24件(15.7%)、江府消防署が21件(13.7%)の順となっています。

(別図Ⅲ—4参照)

5 市町村別救助活動状況

市町村別に救助活動状況を比較して見ると、出動件数、活動件数、救助人員ともに、米子市が最も多く出動件数57件(37.3%)、次いで大山町が30件(19.6%)、境港市が16件(10.5%)、伯耆町が11件(7.2%)等の順となっており、他米子道、山陰道へも出動しています。

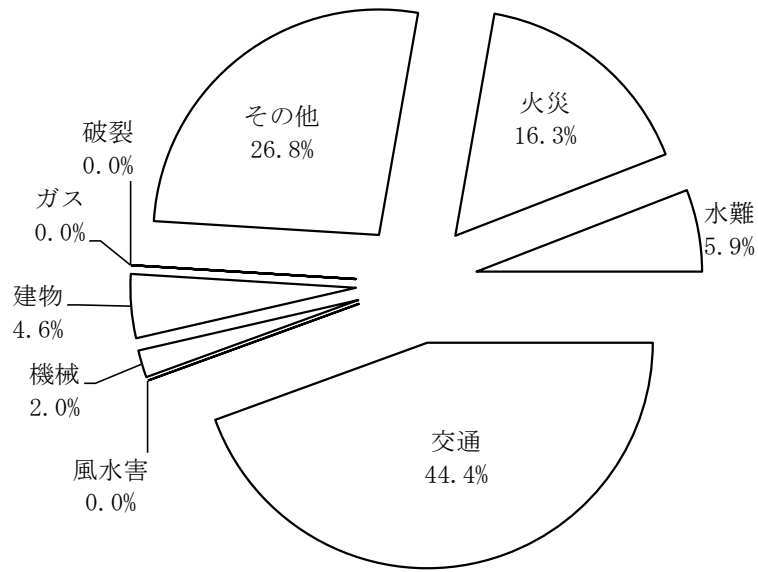
(別図Ⅲ—5参照)

6 月別救助活動状況

月別の救助出動件数を見ると、11月が18件(11.8%)と最も多く、次いで3月・6月が17件(11.1%)、9月が15件(9.8%)等の順となっています。

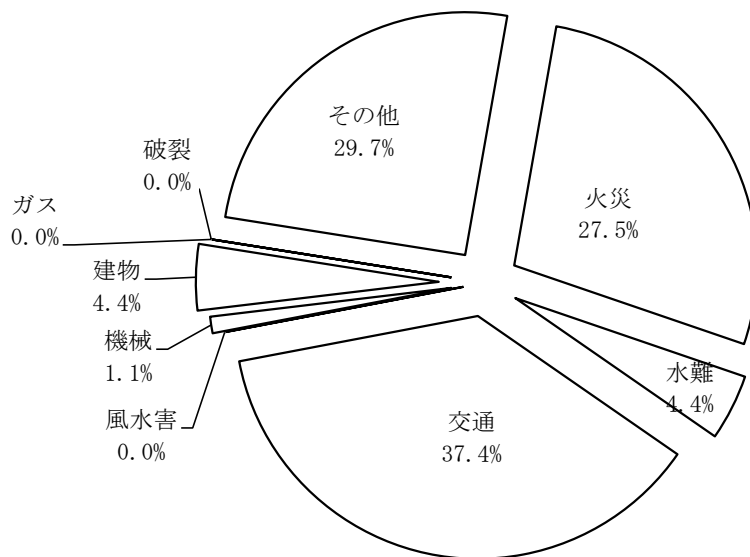
(別図Ⅲ—6参照)

別図Ⅲ-1 事故種別救助出動状況



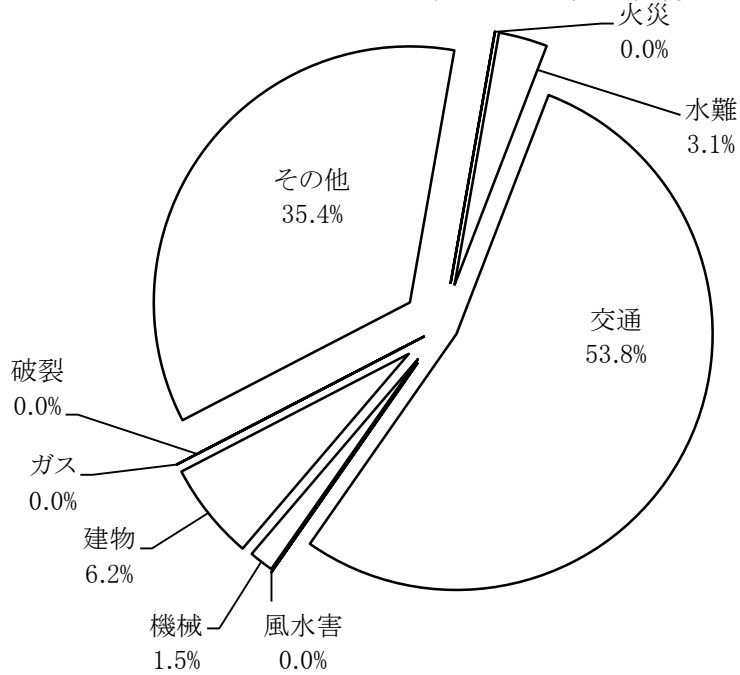
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
出場件数	25	9	68	0	3	7	0	0	41	153

別図Ⅲ-2 事故種別救助活動状況



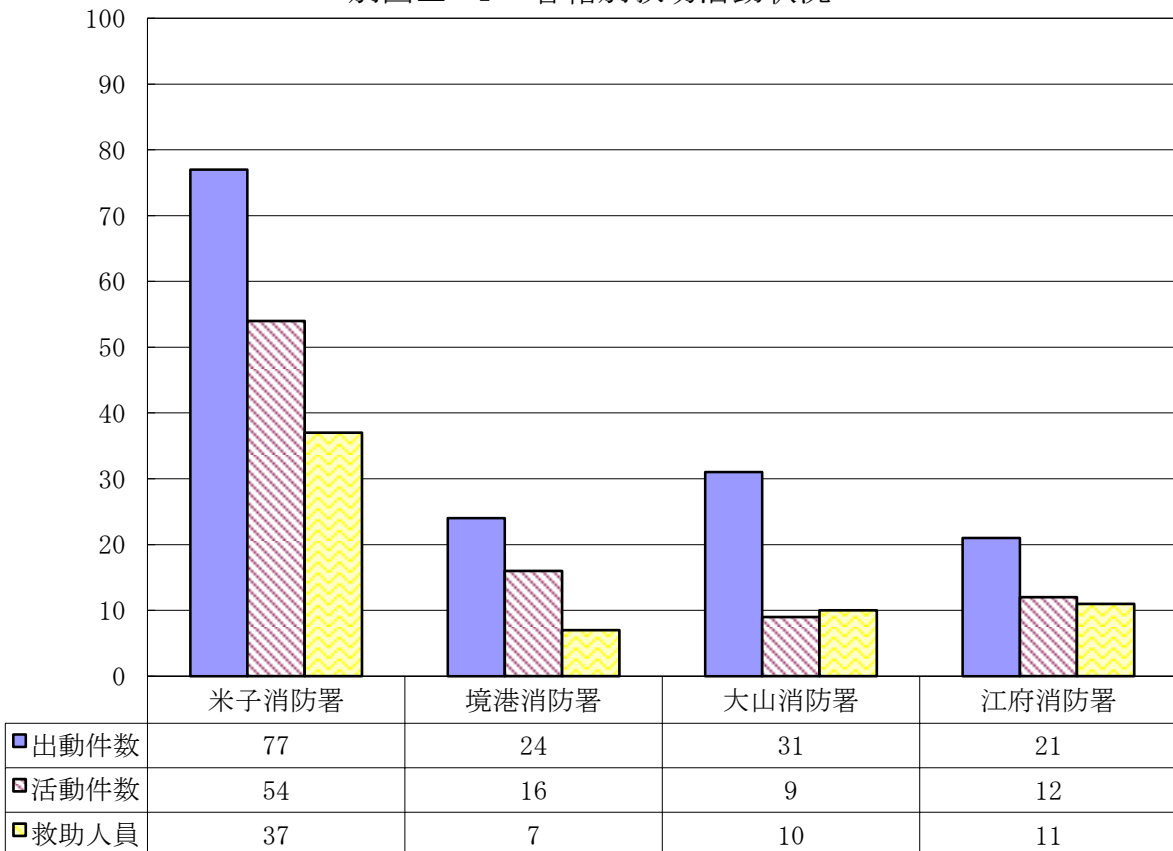
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
活動件数	25	4	34	0	1	4	0	0	23	91

別図Ⅲ-3 事故種別救助人員状況

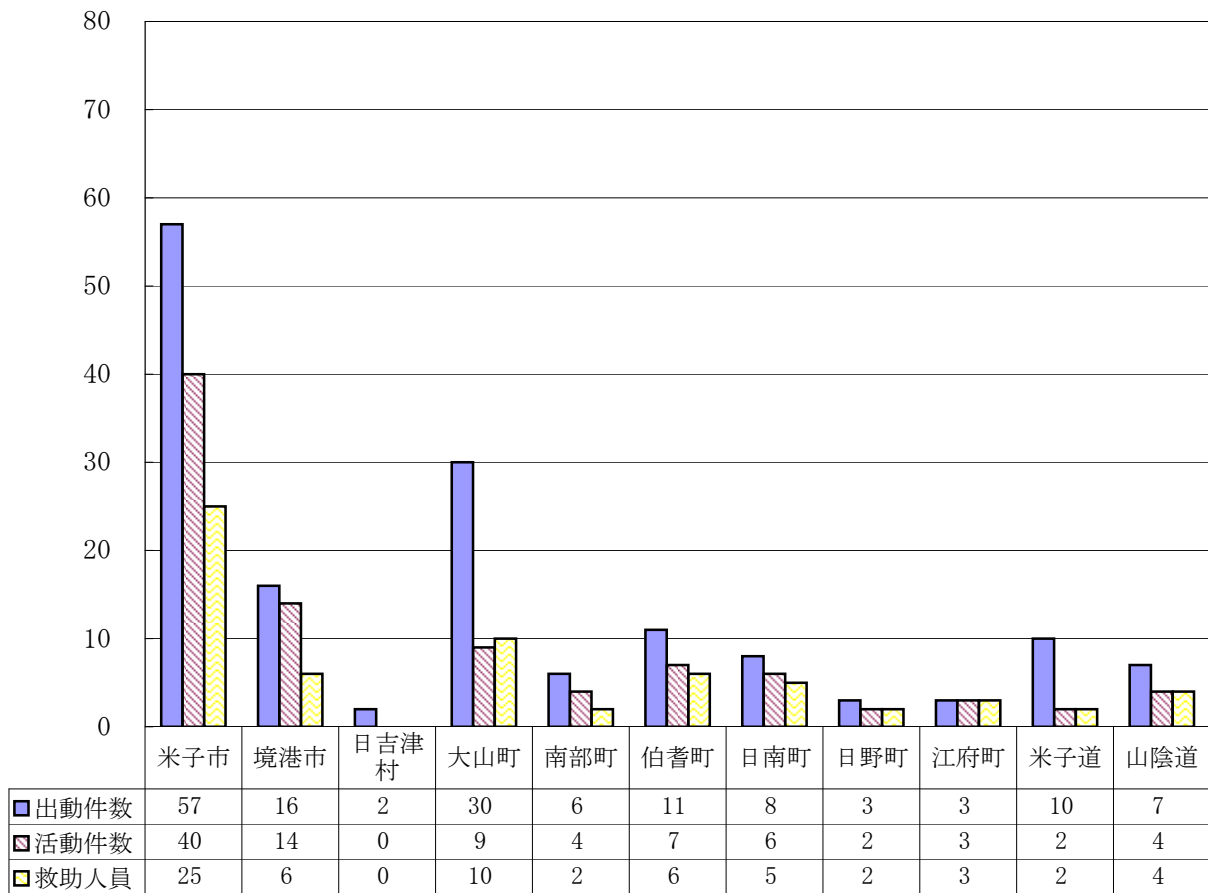


事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
救助人員	0	2	35	0	1	4	0	0	23	65

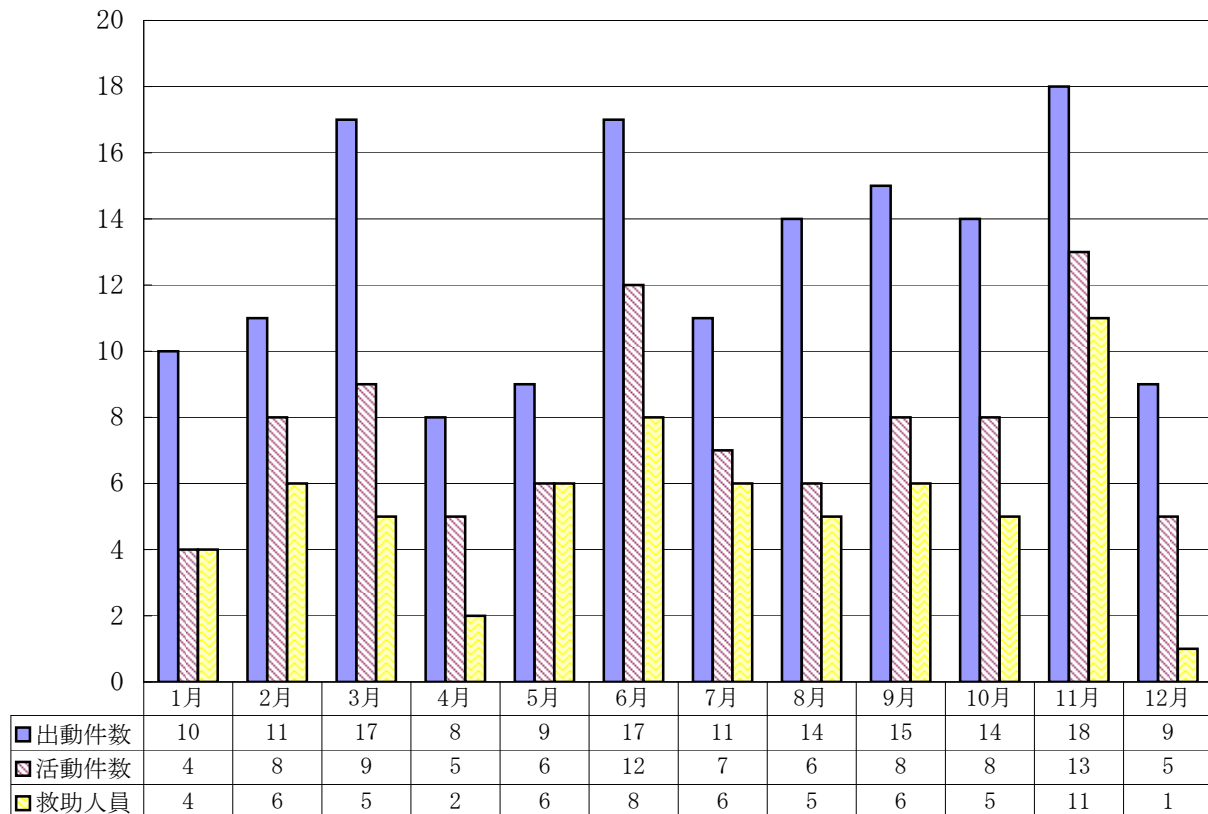
別図Ⅲ-4 管轄別救助活動状況



別図Ⅲ-5 市町村別救助活動状況



別図Ⅲ-6 月別救助活動状況



IV 119番着信概況

(平成25年1月～12月)

1 着信件数の概況

平成25年中の119番通報は、総着信件数13,862件で昨年に比べ504件(3.6%増)多くなっています。1ヶ月平均にすると約1,155件、1日平均では約38件の着信となります。通報種別としては、救急が最も多く9,708件(70.0%)でした。火災は217件(1.6%)、救助72件(0.5%)、警戒129件(0.9%)、間違い817件(5.1%)、通報訓練等1,669件(12.0%)、病院などに関する問い合わせ等1,124件(8.1%)となっており、悪戯と思われるものが126件(1.2%)でした。(別表IV-1参照)

2 月別の119番着信状況

月別で着信件数の最も多かったのは12月の1,247件、最も少なかったのは4月の1,019件でした。救急通報で最も多かったのは12月の884件、最も少なかったのは6月の719件で、月平均約809件でした。火災通報で最も多かったのは3月の50件、最も少なかったのは1月の3件で、月平均約18件でした。(別表IV-2参照)

3 電話種別による119番着信状況

電話種別ごとに着信件数を見ますと、固定電話5,999件で431件の減、IP電話3,252件で328件増、携帯電話4,611件で607件の増加でした。固定電話からの通報の減少、IP電話、携帯電話からの通報の増加傾向は近年継続して見られる傾向です。

災害別に電話種別による通報状況を見ると、火災、救助、警戒など衆人に発見されやすいものについては携帯電話での通報比率が約60%と高く、救急など屋内での発生が多いものについては固定電話とIP電話での通報比率が約70%と高くなっています。(別表IV-3、IV-4参照)

4 携帯電話からの着信状況

携帯電話からの119番通報は4,611件で、全着信件数の約33%でした。また、携帯電話からの問合せ、間違いなどの通報が多くみられます。

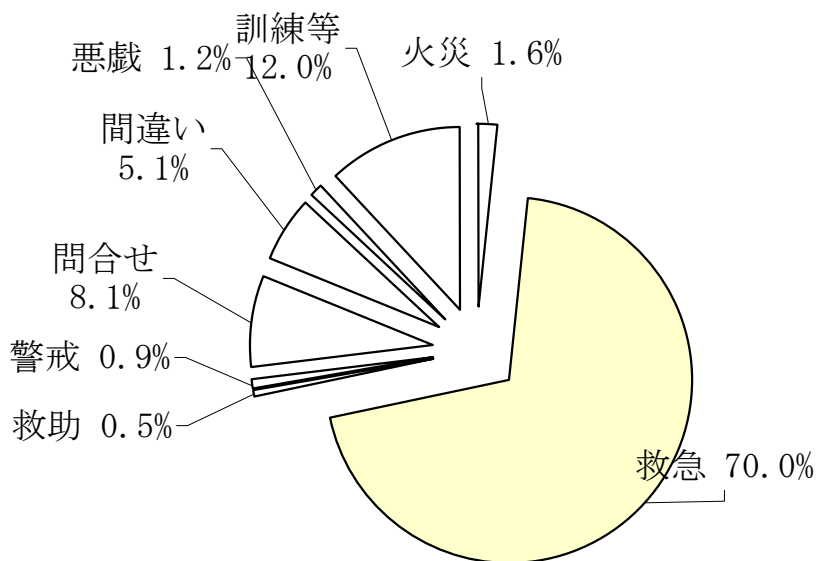
隣県などの管轄地区以外からの携帯電話による通報を、他の消防機関へ転送処理した件数は42件で、逆に他の消防機関から転送受信した件数は33件ありました。(別表IV-5、IV-6参照)

5 時間帯別119番通報の着信状況

時間帯別に119番通報の着信比率を見ると、一般的な活動時間帯(午前8時～午後9時台)では全体の約79%で、睡眠時間帯(午後10時～午前7時台)では約21%でした。(別図IV-7参照)

別表Ⅳ－1 119番着信件数

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
平成21年	193	8,126	62	102	1,110	766	139	1,311	11,809
平成22年	159	8,663	54	102	1,206	769	107	1,662	12,722
平成23年	300	9,435	57	116	1,301	693	162	1,651	13,715
平成24年	199	9,564	74	89	1,000	616	120	1,696	13,358
平成25年	217	9,708	72	129	1,124	817	126	1,669	13,862

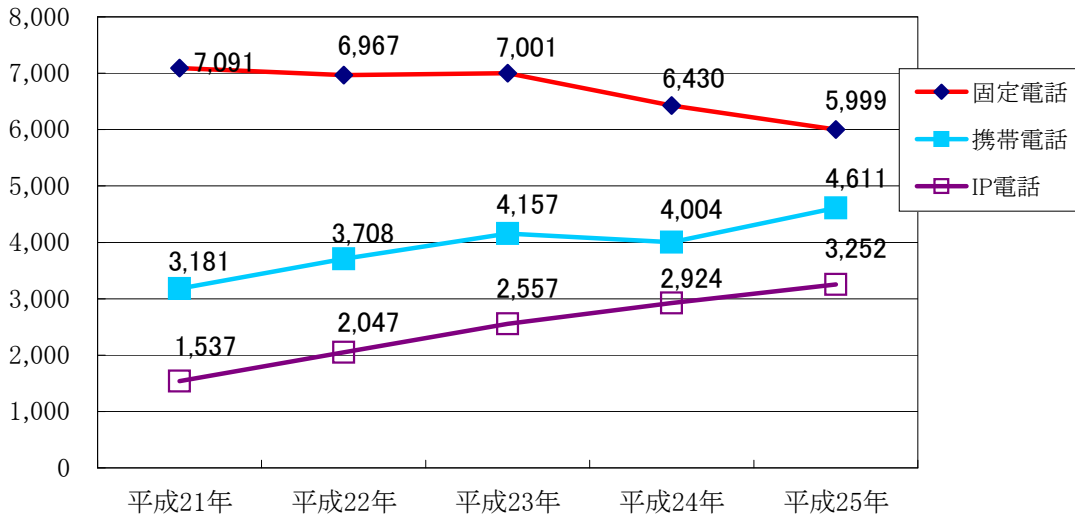


別表Ⅳ－2 月別119番着信状況

	火災	救急	救助	警戒等	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
1月	3	871	5	2	103	48	8	75	1,115
2月	43	766	5	8	96	48	7	107	1,080
3月	50	826	5	8	94	63	11	189	1,246
4月	14	751	4	7	67	59	7	110	1,019
5月	23	772	1	13	85	54	9	166	1,123
6月	20	719	5	7	80	57	9	150	1,047
7月	11	831	4	21	123	119	12	100	1,221
8月	6	825	11	12	122	94	12	82	1,164
9月	10	776	6	11	98	72	24	134	1,131
10月	13	825	14	13	81	72	9	209	1,236
11月	10	862	9	11	84	57	4	196	1,233
12月	14	884	3	16	91	74	14	151	1,247
合計	217	9,708	72	129	1,124	817	126	1,669	13,862
月平均	18.1	809.0	6.0	10.8	93.7	68.1	10.5	139.1	1,155.2

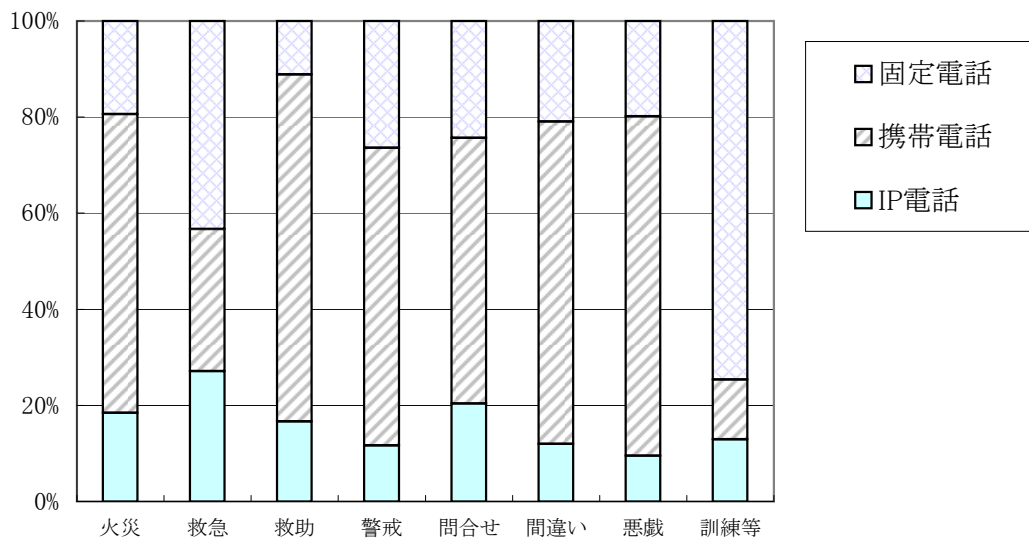
別表IV-3 電話種別による119番着信件数の推移

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
固定電話	7,091	6,967	7,001	6,430	5,999
携帯電話	3,181	3,708	4,157	4,004	4,611
IP電話	1,537	2,047	2,557	2,924	3,252
合計	11,809	12,722	13,715	13,358	13,862



別表IV-4 電話種別による通報状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
固定電話	42	4,201	8	34	273	171	25	1,245	5,999
携帯電話	135	2,877	52	80	622	548	89	208	4,611
IP電話	40	2,630	12	15	229	98	12	216	3,252
合計	217	9,708	72	129	1,124	817	126	1,669	13,862



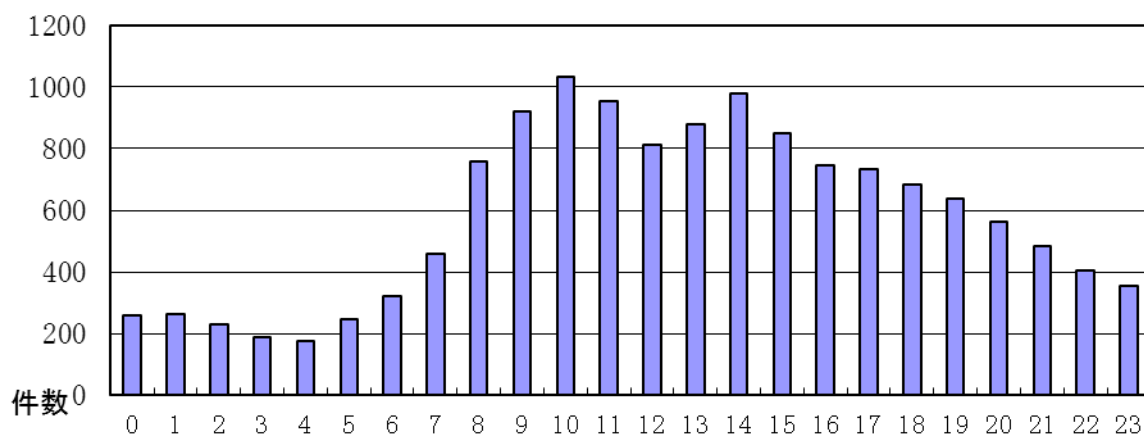
別表Ⅳ－5 携帯電話からの着信状況

西部消防局管内の災害などの着信件数			他の消防機関に転送をした件数
直接通報を受けた件数	他の消防機関から転送受信した件数	総着信件数	
4,578	33	4,611	42

別表Ⅳ－6 携帯電話の消防機関別転送状況

他の消防機関から転送を受信した件数					他の消防機関に転送した件数				
消防	火災	救急	その他	合計	消防	火災	救急	その他	合計
松江		8	4	12	松江		29	1	30
安来		5	4	9	安来	1	11		12
雲南					雲南				
東部			1	1	東部				
中部	1	7	2	10	中部				
新見					新見				
美作地区		1			美作地区				
備北					備北				
合計	1	21	11	33	合計	1	40	1	42

別図Ⅳ－1 時間帯別着信状況



消すまでは 心の警報 ONのまま

平成25年度全国統一防火標語

火災情報テレホンガイド 0859-22-0119

防火・救急に関するご相談・お問い合わせ

お気軽に最寄りの消防署へどうぞ

名 称	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
消 防 局	米子市両三柳5452番地	683-0853	0859-35-1951
米子消防署	米子市富士見町一丁目103番地1	683-0055	0859-39-0251
米子消防署皆生出張所	米子市皆生五丁目8番5号	683-0003	0859-39-0253
米子消防署南部出張所	西伯郡南部町清水川3番地1	683-0321	0859-39-6003
米子消防署伯耆出張所	西伯郡伯耆町溝口20番地4	689-4201	0859-39-9001
境港消防署	境港市巾野町2116番地	684-0041	0859-47-0119
境港消防署弓浜出張所	米子市大篠津町2913番地1	683-0101	0859-48-2005
大山消防署	西伯郡大山町末吉403番地2	689-3331	0859-39-5002
大山消防署中山出張所	西伯郡大山町長野880番地3	689-3136	0858-49-3001
江府消防署	日野郡江府町武庫1390番地3	689-4411	0859-77-2001
江府消防署生山出張所	日野郡日南町生山349番地1	689-5211	0859-77-1001

※本概況に関するお問い合わせは下記にお願いします。

火災…………… 予防課予防係	0859-35-1954
救急救助…………… 警防課救急救助係	0859-35-1959
119番着信状況…指令課指令係	0859-35-1960

平成26年2月発行
〒683-0853 米子市両三柳5452番地
鳥取県西部広域行政管理組合消防局
TEL 0859-35-1951(代)